

2026 年 8 月 5(水)10:30から CRT スタジオで収録

効果の上がる家庭教育の仕方を考える。 率先垂範、保護者が模範を示すのが一番効果的

開倫塾

塾長 林明夫

Q：効果の上がる「家庭教育の方法」は何ですか。

A：「率先垂範、保護者が、模範を示すのが一番」効果的です。

Q：え、どういうことですか。例えば、林さんが、ずっと訴え続けている「辞書、新聞、読書、図書館に慣れ親しみ、読解力を身に着けよう」を、家庭教育として取り組む場合、どのように、「保護者」としての模範を示せばよいのですか。

A：＜辞書に親しませる方法＞

- (1)家庭学習として、辞書に親しませ、語彙力を身につけさせたかったら、どのようにすればよいか。読解力を身に着けさせるには、どのように、保護者としての模範を示したらよいか。
- (2)まずは、保護者の身近のすぐに取り出せる場所に、「国語辞典」「漢字辞典(漢和辞典)」「英和辞典」など、「辞書」を置くことです。
- (3)保護者の皆様が、中学校や、高校でお使いになった辞書があれば、ぜひ、探し出し、身近に置いてください。もし、身近に辞書がなければ、書店に行き、ぜひ、読みやすい辞書を購入しましょう。ブックオフなどの、100円コーナーにも、国語辞典や漢字辞典、英和辞典が並んでいることもあります。老眼気味の方は、文字の大きな「小学国語辞典」がおすすめです。
- (4)そして、保護者は、新聞や本などを読んでいて、意味や、読み方がわからないことばがあったら、子どもの前で「辞書を用いて調べる」ことを、おすすめいたします。子どもは、保護者のみなさまが、意味や読み方がわからない語句があった場合、「辞書を用いて調べる」という様子を、直接、目の前で見ることにより、「辞書」の大切さを知ることができるからです。
- (5)以前、公益財団法人日本外国特派員協会で「シェイクスピア午餐会(ランチを食べ、シェイクスピアの作品の解説を聞き、ビデオで作品を見る会)」に参加した際、近くにおいで、映画字幕翻訳家の戸田奈津子氏が、「辞書」を用いて調べているお姿を見、大感激したことがあります。戸田さんのような方が辞書を用いて調べる姿を間近で見ることは、私にとって、大きな影響をもたらしました。
- (6)「辞書に親しませる習慣」を身につけさせたかったら、「保護者は、率先垂範、こどもの前で、辞書に親しんでいる姿を示す」。どうでしょうか。

Q：＜新聞に親しませる＞には、どうしたらよいですか。

A：(1)「保護者が、新聞を毎日、一面から、30分以上、舐めるように読む」姿を、こどもに見せことが一番効果的です。

(2)そのためには、各ご家庭で、新聞を購読なさることをおすすめいたします。

(3)週に何回か、曜日を決めて、コンビニで新聞を買い、1週間かけて、まずは保護者が、こ

どもの前で、新聞をお読みになることを、おすすめいたします。土曜日、日曜日の新聞は、様々な特集が組まれ、読みごたえがあります。

- (4)どうしてもという保護者の皆様は、年に1回、「元旦」の新聞を、1～2紙、コンビニなどで買い求め、お正月休みの間に、こどもの前で、お読みになることをおすすめいたします。
- (5)世の中には、毎日発行され、毎日配達される「新聞」があることを教えることは、立派な家庭教育と考えます。
- (6)新聞をインターネットで読む場合には、購読料金を払うと、「記事の全文」を、コマーシャルなしで読むことができます。家庭教育としては、新聞は、内容のしっかりした全国紙、地方紙、英字新聞を、料金を払って読むことをご指導なさることを、おすすめします。
- (7)無料の記事には、広告が満載で、記事の全部は読むことができません。情報サイトには、どんどん、読者の嗜好を分析した広告宣伝であふれますので、タダより高いものはないという結果に陥ることもあります。要注意であることも家庭教育でお教えください。

Q：＜読書に親しませるには＞どうしたらよいでしょうか。

A：(1)保護者が読書に親しむ姿を子どもに見せるのが、一番効果的です。

- (2)そのために、何をどうしたらいいか。自分が読みたい本を、身近に置き、子どもの前で、熱心に読むことをおすすめします。
- (3)一度読んで、もう一度読みたい本や、途中まで読んで、読み終えていない本があれば、何冊か身近に置き、頑張って最後まで読んでみる。その姿を、子どもに見せることをおすすめします。子どもに読ませたい本は、決して処分しないようお願いします。
- (4)一冊本を読み終えたら、同じ著者・作家の、別の代表作に挑戦し、頑張って最後まで読む。例えば、ツルゲーネフの代表作、「初恋」(米川正夫訳、岩波文庫)を読み終えたら、別の代表作「片恋・ファウスト」(米川正夫訳、岩波文庫)を、こどもの前で、続けて読む。「本を一冊読み終え、気に入ったら、その作者の代表作も読む」という「読書の方法」を、家庭教育として子どもに伝えることも、意義深いと考えます。どうでしょうか。

Q：＜図書館に慣れ親しむ＞にはどうしたらよいでしょうか。

A：(1)保護者が、子どもと一緒に、週に何回か、もしくは、月に何回か、定期的に図書館に出かけ、本を閲覧したり、借りたりすることをおすすめします。

- (2)同時に、「～を読む会」「ビブリオバトル」「朗読会」など、図書館での様々なイベントに、家族で参加なさることも、おすすめいたします。
- (3)保護者が子どもと共に、図書館に慣れ親しみ、図書館を「ホッとできる知的空間」「第三の場所(サードプレイス)」とすることも、素晴らしい家庭教育と考えます。いかがでしょうか。
- (4)同時に、書店(本屋さん)も、定期的に子供と一緒に訪れ、どのような本がどこに置いてあるかを熟知することも、大切な家庭教育として、おすすめいたします。大切な日のプレゼントは、何回かに1回は、「本」をお選ぶ。これも立派な家庭教育です。いかがでしょうか。

○今日の、CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」「林明夫の歩きながら考える」は、効果の上がる「家庭教育の方法」「率先垂範、保護者が模範を示すのが一番効果的」でした。